

消費者物価指数と卸売物価指数の最近の動き

総合卸売物価は、平成9年後半から下落傾向にあったが、平成11年度に下げ止まり、横ばいで推移した後、緩やかな上昇傾向にある。

消費者物価は、上昇が続いてきたが平成11年後半から連続して下落傾向となっている。

総合卸売物価の緩やかな上昇の主な原因

原油価格の上昇に伴う素原材料、中間財の価格が上昇したこと

11年以降生産財の出荷が増加し、中間財の在庫調整が最終財に先駆けて終了し、中間財が上昇したこと

消費者物価の連続した下落傾向の主な原因

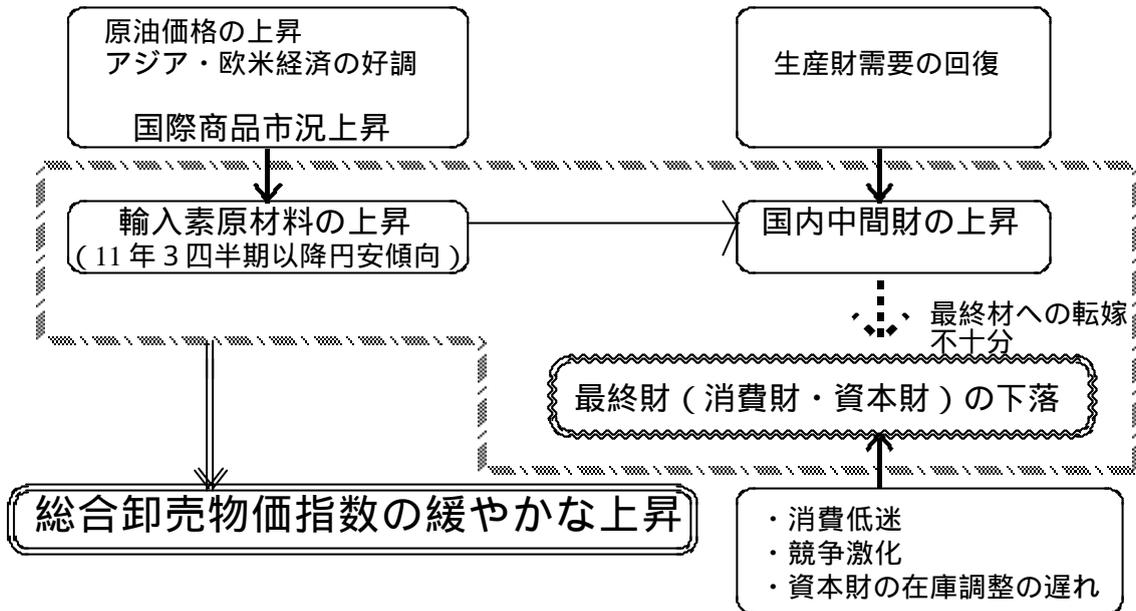
長引く景気低迷の中、賃金下落などにより消費回復の足取りが弱いこと

円高による輸入消費財の価格下落と輸入浸透度（輸入品の使用割合）の高まり

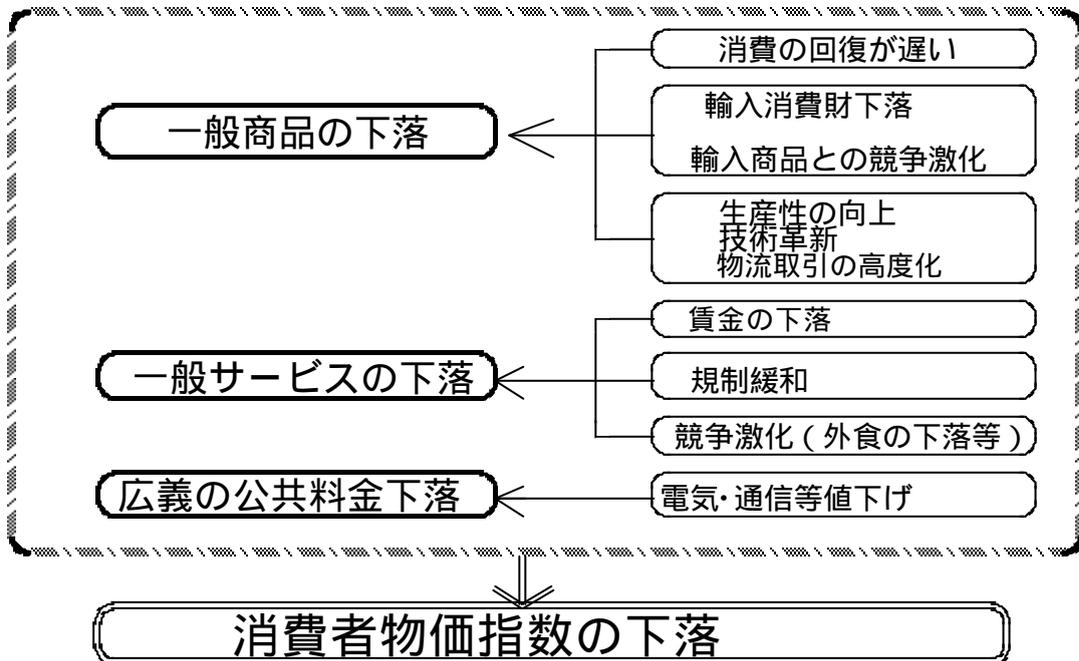
競争激化による価格の値下げ

* の消費回復の弱さが、 の競争激化の要因となっており、そのため企業は物流の高度化によるコストダウンや安い輸入消費財の活用を進める等、これらの要因は相互に関係している。

1 総合卸売物価指数の緩やかな上昇の主な要素



2 消費者物価指数下落の主な要素

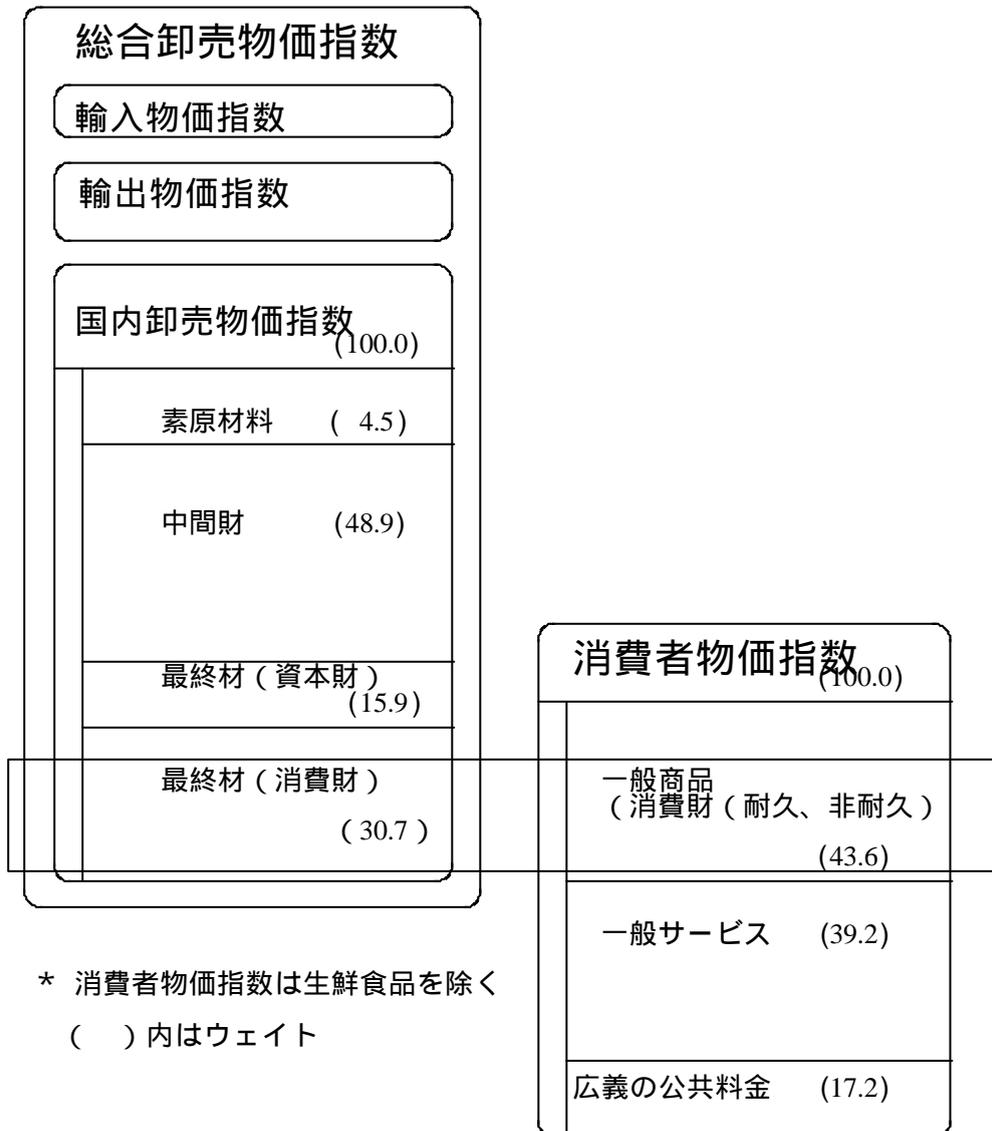


(参考)

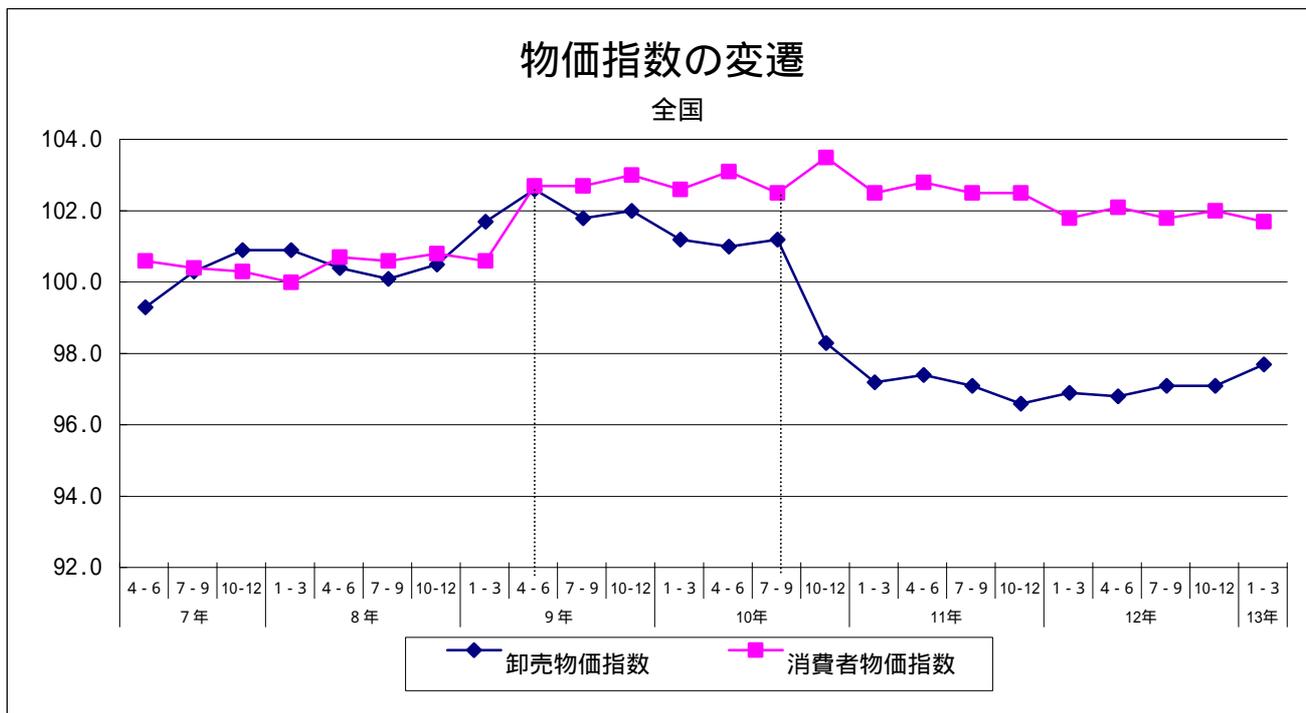
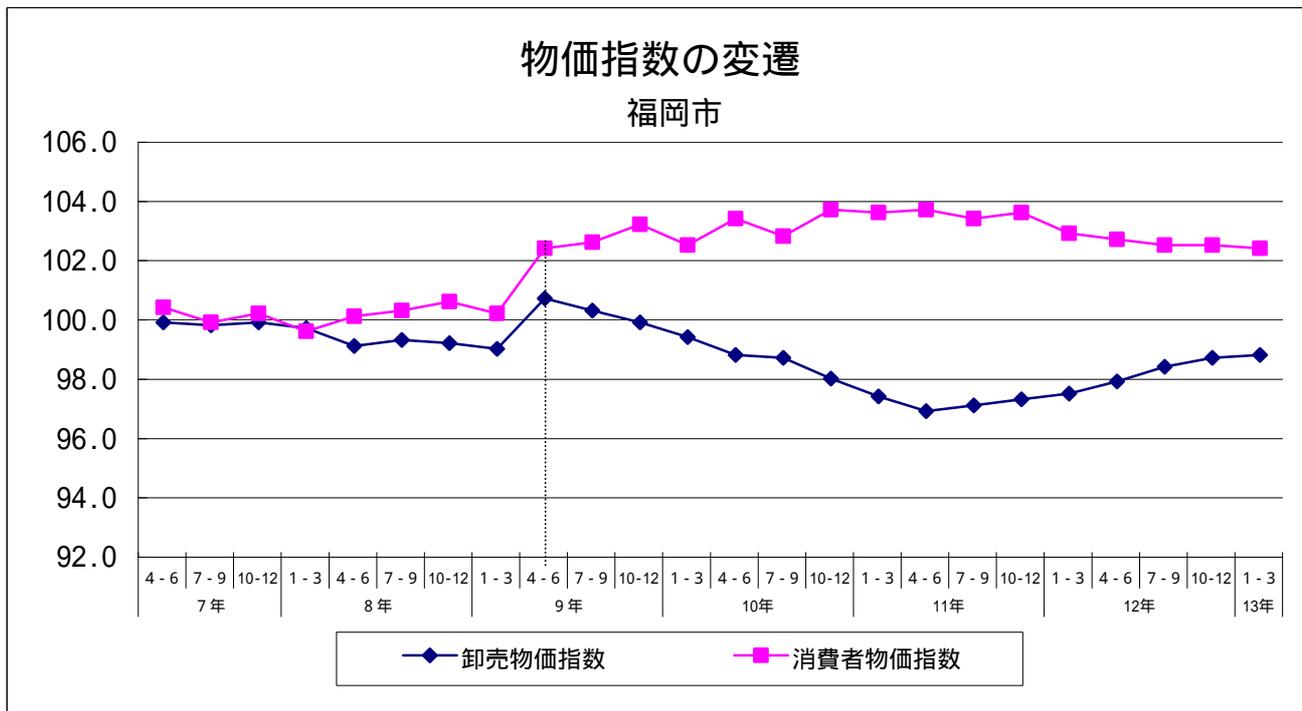
消費者物価指数と卸売物価指数

対象品目

- ・ 卸売物価は企業間で取り引きされる商品すべて（川上から川下までの財）が対象となる。
- ・ 消費者物価と卸売物価に共通する品目は、一般商品（消費財）のみで、これは卸売物価のウェイトの約3割強にすぎない。
- ・ 卸売物価は、「商品」のみを対象とするのに対して、消費者物価は「サービス」も含まれる。このため、消費者物価は人件費の割合が高い品目のウェイトが大きい。
- ・ 「消費者物価」は「卸売物価」があがると3ヶ月から半年程遅れて消費者物価が上がるケースが多いが必ずしも一致した動きとはならない。

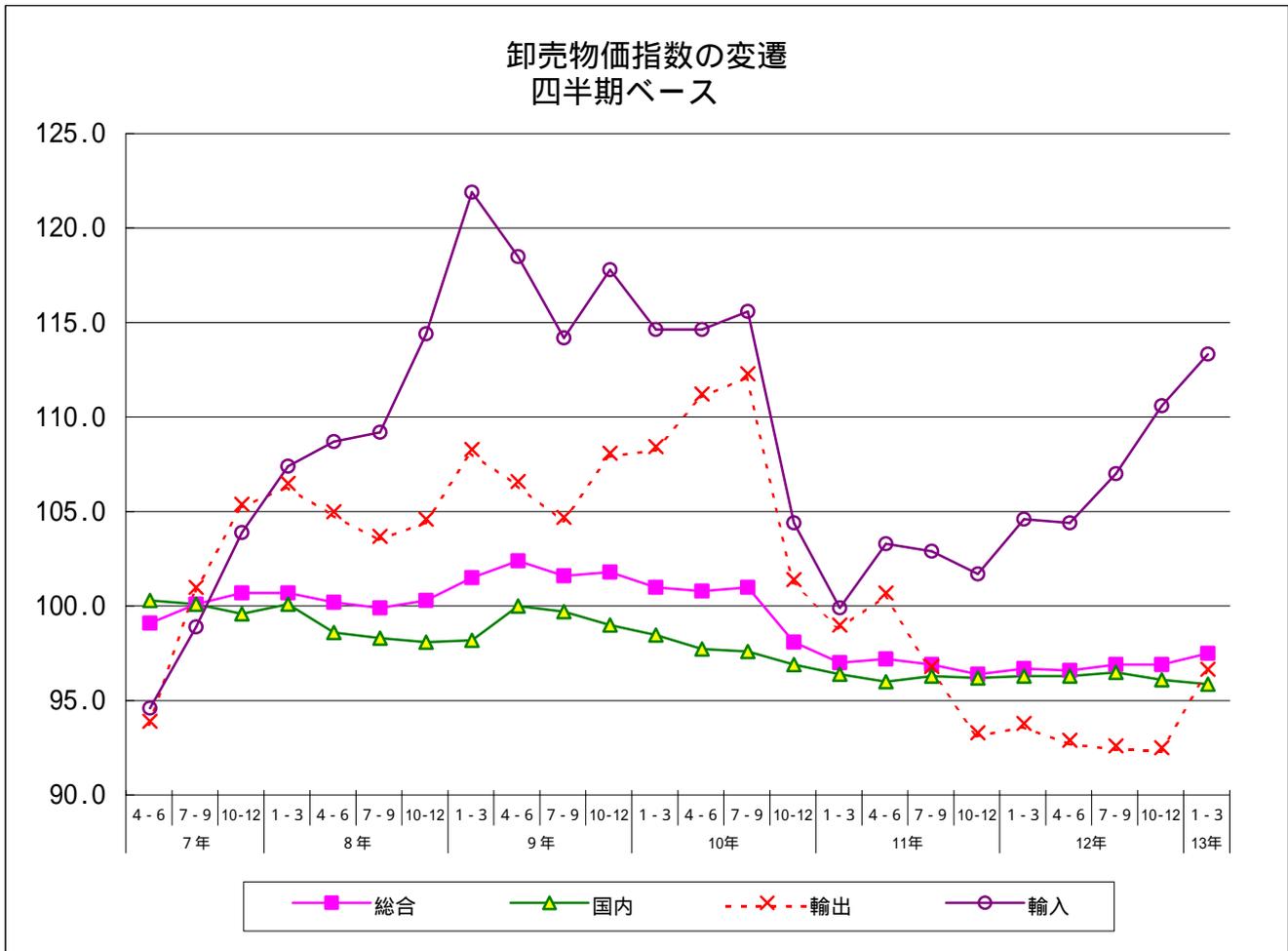


物価指数の変遷（四半期毎）



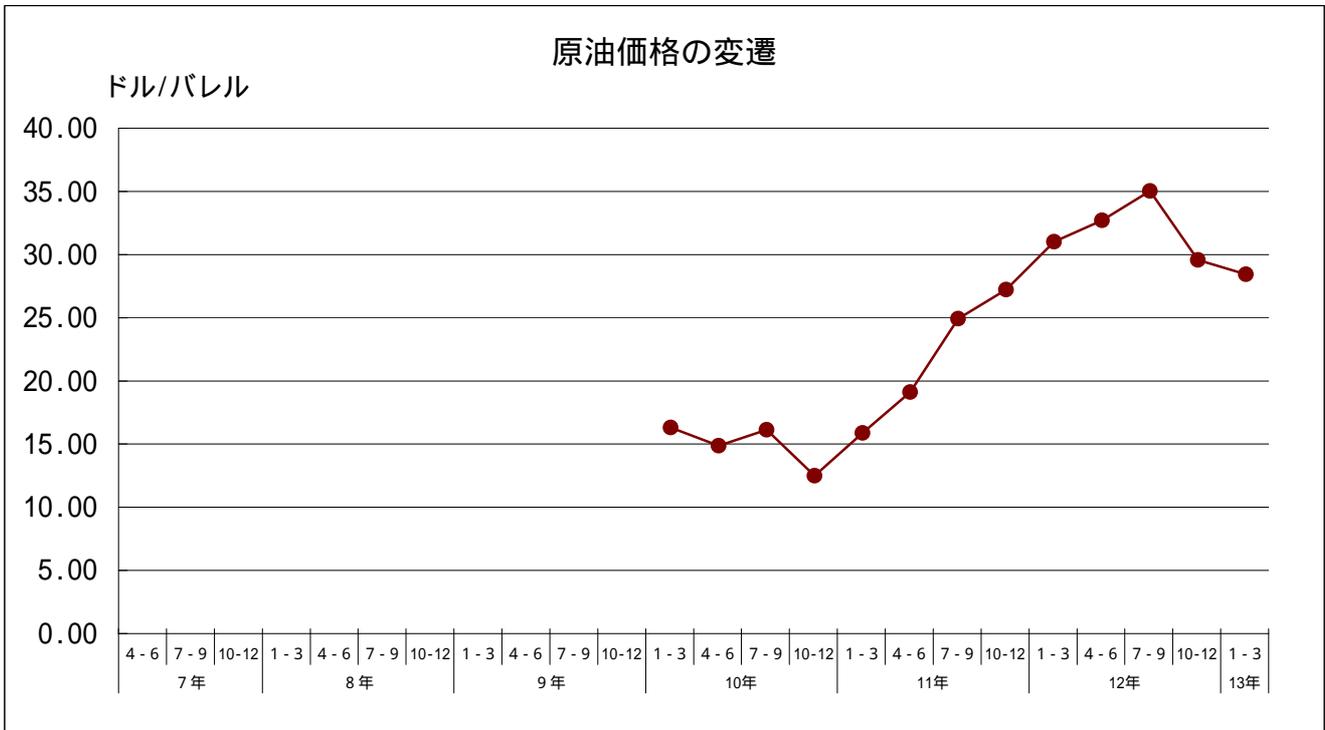
資料出所：日本銀行、総務省統計局、福岡市
福岡県調査統計課

卸売物価指数の変遷（四半期毎）



資料出所：日本銀行、福岡市

為替相場と原油価格の変遷（3か月毎）



原油価格：東京ドバイ価格

為替相場：東京インターバンク相場（直物・月末・17時時点）

3か月ごとの月末値